

6月に入り、例年より10日ほど早く、関東地方の梅雨入りが発表されました。宣言された途端、まるで真夏のような猛暑！子ども達はシャワーを浴びたかの様に汗だくになりながらも、朝から元気な笑顔で、楽しそうに園内を走り回っています。夏の太陽よりもまぶしく輝いている愛らしい子ども達から エネルギーをもらって、今日もまた、共に生き合い 分かち合えることができる幸いに、感謝でいっぱいです。

いつの頃からでしょうか、この時期になると 人知を遥かに超える豪雨に見舞われ、思わぬ災害への警戒が必要と言われることが多くなりました。年々 自然界の営みは大きな危険が伴う変化が増え、日毎の天気予報に何とも言えない不安を覚えますが天を仰ぎ 神様の御心に想いを馳せながら、御手に委ね、祈りをささげるこの頃です。皆様の大切なお子さんをお預かりしている 日々の園生活の中で、私共 職員自身の危機管理への意識について、子ども達の安全に努めるべく 心を引き締めなければと緊急時の適切な対応を見直し、より一層の強化に努め、職員一同 尽力して参ります。今後とも 変わらず、各保護者の皆様の 御理解と御協力を よろしくお願い致します。

さて つのぶえでは毎週金曜日 幼児クラスを中心にして全体礼拝を行っています。聖書に記された出来事を物語風に仕立て、始めから順々に1年をかけて語りますが毎年毎年これまでずっと どの時代の子ども達も皆、この“かみさまのおはなし”を心待ちにしてくれるほど ほんとうに大好きです。夢中で聴く子ども達のまっすぐな眼差しに いつも支えられ、つたない語り手の私自身も、楽しい時を過ごしています。神様の御業（みわざ）・御言（みことば）のほか、人としての心・その内面や本質時には それらに迫る精神性を題材にした内容もありますが、約30分…それ以上の長いメッセージの時も いつでも真剣な表情で 一心に聴き入っている子ども達です。独特な聖書の世界観を 不思議なほど自然に すーっと受け入れ、主人公になりきりそれぞれのイメージを膨らませてタイムスリップを楽しんでいる皆の様子を通して、聖書の持つ言葉の力に併せ、人として子どもに備えられている 感じる心・聴く力を確信しています。今年度も5月から 全体礼拝での お話の時間がスタートしました。

まず先日は、旧約聖書の最初に記されている『創世記』第1章の“天地創造”を話しました。今、私達が生きているこの世界は 神様が発するひとつひとつの言葉でつくられました。何も見えない 暗い闇の中に在った地上に、神様は「光よあれ」と言われると、世界は明るく見えるものになりました。それから 6日の時間をかけ、地上のこの世界はひとつひとつ 大切に丁寧に天国と同じように造られたのでした。その御業を終えられる度、神様は その美しさ・完璧さに「よし」と満足されました。そして6日目、ご自身がつくられた世界を、ご自身と同じように愛し 責任をもって管理するという、他の被造物とは異なる 明確な目的をもって人を創造されました。ここに 私達人間の生きる意味が存在します。人間には、世界を管理する責任があり大切に愛する使命があること。自然と共生する中で 私達が決して忘れてはならない神様からのメッセージだと気づかされます。天地創造の出来事を 子ども達と一緒に心静かに感じ合い、人としての生き方に向き合いたいと思っています。（石田 記）

「あなたの天を、あなたの指の業を、わたしは仰ぎます。

月も、星も、あなたが配置なさったもの。（詩篇 8：4）」